●〈症例〉

日本住血吸虫卵が併存した 直腸カルチノイドの1例

黒崎哲也 岡部紀正 串田則章 鈴木且磨
保谷芳行

神奈川県衛生看護専門学校附属病院外科

〔Key Words〕 直腸カルチノイド, 日本住血吸虫症

日本住血吸虫症(以下, 日虫症)は今でも陳旧性病変に遭遇する寄生虫感染症で, 以前より本症と悪性腫瘍発生に關しての報告も散見される。今回われわれは直腸カルチノイドで切除した標本に, 住血吸虫卵を認めた症例を経験したので報告する。

症例: 75歳, 男性。

主訴: 健康診断での便潜血陽性。

家族歴: 長姉が胃癌で死亡。

既往歴: 特記すべきことなし。

生活歴: 25歳頃に1年間中国揚子江流域で生活。

現病歴: 外来で施行した大腸造影検査で直

腸に隆起性病変を認めたため, 手術目的で入院した。

入院時血液検査所見では腫瘍マーカーを含めて, 特に異常所見を認めなかった。

直腸診では肛門縁より3cmの位置に硬く, 中心陥凹を伴う隆起性病変を触知した。

注腸造影所見(Fig. 1): 肛門縁より3cmの部位に, 中心陥凹を伴う直径2cmの隆起性病変を認めた。粘膜には中心陥凹以外に表面の不整は認めなかった。

大腸内視鏡所見(Color 1): 腫瘍は黄色調で, 立ち上がりが急峻であった。さらに深い中心潰瘍を伴っており, 2型の癌腫も疑われたが, 同時に施行した生検ではカルチノイドの診断であった。

手術所見: 直腸カルチノイドの診断で, 腹会陰式直

Fig. 1 Barium enema study showed polypoid lesion. The tumor was 2cm in diameter and had a deep ulceration with sharp elevated wall. (⇐)

Fig. 2 High-power view of the histopathological specimen stained with HE revealed trabecular structures (right) and distinct tubular structures (left) composed of tumor cells.

Fig. 3 High-power view of the histopathological specimen shows that many *Schistosoma japonica* ova were observed not only in the tumor (left ⇐) but also in the other part (right ⇨).

Table 1 Colonoscopic findings of the large bowel lesions of chronic *Schistosomiasis japonica* (a quotation from literature¹⁾).

1. 粘膜面の変化のみが見られるもの
 1. 不整形黄色斑
 2. 透見血管の異常
 - a. 羽毛状・クモ状血管様変化
 - b. 細く、まばらな変化
 3. 退色し、菲薄化した瘢痕状粘膜
2. 腸管内腔の狭小化に伴うもの
 1. ハウストラの消失、鉛管状変化
 2. 伸展性に乏しい、凸凹不整な粘膜

腸切断術を行った。腫大したリンパ節を多数認め、所属リンパ節を第2群まで廓清した。

病理組織標本：腫瘍は粘膜下層に主座をおき、一部は粘膜面に露出し、また最深部は筋層を越えて浸潤していた。強拡大では均一で小型の円・卵円形腫瘍細胞が索状、腺管状に増殖しており、核分裂像はみられずカルチノイドと診断された(Fig. 2)。また、腫瘍内および腫瘍周辺に日本住血吸虫卵が認められた。虫卵は切除標本全体にほぼ均等に認められた(Fig. 3)。また同時に提出したリンパ節には著明なカルチノイドの転移を認めた。

術後経過は順調で、21日目に退院した。術後13カ月の現在、再発の徴候なく外来通院中である。

考 察

日虫症は日本、中国、東南アジアに分布する *Schistosoma japonicum* による感染症で、急性期には虫卵・成虫が微小血管内に塞栓、血行障害を起こし、粘膜にびらん、潰瘍を形成する¹⁾。慢性期には虫卵周囲の繊維化、粘膜の萎縮、腺管の減少を引き起こす¹⁾。

慢性の日虫症の内視鏡所見を Table 1 に示す¹⁾。このうち不整形黄色斑は本症に特徴的とされ、虫卵を反映しているといわれている²⁾。本症例の内視鏡像を再検討してみると、腫瘍部分以外の粘膜に不整形黄色斑、透見血管の羽毛状血管変化の所見が判読しえた(Color 2)が、腫瘍部分ではカルチノイドとしての所見が強いため、これらの所見ははっきりとしなかった。

以前から日虫症と大腸癌との関連についての報告が散見されるが、いまだ明解な解答はなされていない。関連ありとする説では、虫卵の重複感染刺激による悪性変化、汚染地での大腸癌発生頻度の高さがあげられる³⁾。逆に関連なしとする説は、癌腫にみられる虫卵は古く粘膜下に存在し、上皮性腫瘍の発生には無関係、虫卵の分布と腫瘍発生部位とは一致しない³⁾、マウスを使った実験では発癌率に統計的有意差を認めない¹⁾ことがあげられる。

しかし、カルチノイドとの関連性を示唆する報告はまれである⁴⁾。本症例では腫瘍病変部以外にも同様に虫卵が存在し、また感染より50年の歳月が過ぎている(国内流行地での生活歴がないことより中国で感染したと考えられる)ことより、虫卵が発症の直接の原因とはいいいにくい。しかし、カルチノイドは粘膜下が主座であり、虫卵による刺激などの影響を受けやすいとも考えられ、完全に否定することもできない。また、直径2cmのカルチノイドとしては明瞭な隆起と深い中心潰瘍を認め、著明なリンパ節転移を示しており、何らかの虫卵による修飾の可能性も示唆された。

おわりに

日虫症に直腸カルチノイドを合併した1例を経験した。日虫症がカルチノイドの肉眼型や進展様式に影響を与えている可能性が示唆された。

文 献

- 1) 両角敦郎, 藤野雅之, 佐藤 公, 他: 日本住血吸虫症(大腸). 消化器内視鏡, 5: 1635~1641, 1993
- 2) 田辺 誠, 長廻 紘, 飯田龍一, 他: 日本住血吸虫症の大腸病変. Gastroenterol Endosc, 28: 969~975, 1986
- 3) 橋本可成, 村谷明久, 西山裕康, 他: 日本住血吸虫卵が認められた大腸癌の1例. 癌の臨床, 32: 815~818, 1986
- 4) 秀嶋 周, ニツ木浩一, 上原敏敬, 他: 日本住血吸虫卵を認めた直腸癌の2例. 埼玉県医学会誌, 27: 115~119, 1992

A Case of Rectal Carcinoid Associated with *Schistosomiasis japonicum*

Tetsuya Kurosaki Norimasa Okabe
Katsumaro Suzuki Noriaki Kushida
Yoshiyuki Hoya

A 75-year-old man was admitted to our hospital for a through examination of fecus oculi blood. Barium enema and colonoscopy revealed an annular form rectal tumor at 3cm from the anal verge. And the histological diagnosis of carcinoid tumor was made by biopsy. Abdominoperineal rectal resection was performed.

Histopathologically, the tumor was typical carcinoid. And *Schistosoma japonica* ova were found in the resected specimen. The tumor was 2cm in diameter and located in the submucosal layer mainly. Partially it exposed to the mucosal layer and invaded into the muscular layer at the deepest portion. Resected lymph nodes revealed remarkable metastasis. The *Schistosoma japonica* ova distributed not only in the tumor part but also equally in the resected specimen.

The case presented may indicate some relationship between the presence of *Schistosoma japonicum* and the progression of carcinoid tumor, because of its high malignancy for the size.

Kanagawa Prefecture Nurses and Midwives Training School Hospital.

<カラーは22pに掲載>